

「香椎保育所」さくら組の子どもの絵「わじろひがたのカニとぼく」

ご案内

第23期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 「和白海岸の海浜植物を学ぼう！」

和白干潟には全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、クロマツ林や雑木林、淡水湿地など干潟本来の自然の景観が残っています。干潟の生きものが豊富で、渡り鳥の渡来地にもなっています。和白干潟を守る会では、博多湾に残された和白干潟の大切さを観察会を通して伝えていきます。和白干潟の観察会で案内するガイドを育成するための講習会を開催しています。自然を体験して学習します。参加をお待ちします。（初心者歓迎）

とき：5月24日（日）受付12:30 開始13:00～17:00
雨天決行 大潮 満潮 10:15 干潮16:51

集合：和白干潟を守る会事務所

（福岡市東区和白1-14-37 海のきりえ館1階）

講師：内田 泰三 氏：九州産業大学 建築都市工学部 教授

参加費：300円 募集：20名

持ち物：筆記具、ルーペ、飲み物

服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴、（雨具）

主催：和白干潟を守る会

お問い合わせ：TEL：090-8412-2663（山之内）



ツルナ



ハマニンニクの穂

2020年度 和白干潟を守る会 総会報告 (有江 圭子)

主な役員と事務局組織

2月22日に2020年度の総会を開催しました。参加者は13名。山本代表が「和白干潟を守る会は今年で32年目を迎えます。昨年は長年和白干潟のクリーン作戦を続けたことにより、「海の日記念式典」で国土交通大臣表彰を受けました。世界でプラスチック海洋ごみが問題となっています。和白干潟を守る会でもごみの削減を呼びかけていきたいと思ひます。国連生物多様性の10年日本委員会推薦子ども向け図書が「生物多様性の本箱」として寄贈されましたので、「和白ひがた文庫」として広めていきたいと思ひます。2018年の第13回ラムサール条約締約国会議で国内では2か所の湿地が登録されましたが、和白干潟はまだ登録されていません。今後も和白干潟がぜひ『ラムサール条約登録湿地』となるように希望を持ってがんばりましょう！引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！」と開会挨拶をおこないました。

役員	主な活動内容
会鳥 ミヤコドリ	観察会
代表 山本 廣子	クリーン作戦 干潟まつり HP編集・通信
事務局	調査、写真 記録、会計
事務局長 今村 恵美子	名簿・通信配布管理
事務局員 山之内 芳晴	助成金、監査
会 計 田辺 スミ子	保全のつどい
有江 圭子	山・川・海流域連携
監 事 松尾 満子	資料点検
田浦 征太郎	



2020年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。
3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

2019年度決算と2020年度予算



(単位：万円)

2019年度決算

当期収入は184万円で、主な収入は会費30万円、寄付金63万円、助成金等76万円と事業収入が14万円です。当期は企業や個人から寄付金を頂きました。支出は204万円で、主な事業支出は通信・リーフレット発行、観察会、干潟まつりです。収支は20万円の赤字で、次年度への繰越は304万円となりました。

2020年度予算

当期収入は195万円を見込み、支出は219万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大事に使っていきます。

	2019年度 決算	2020年度 予算
当期収入	184	195
当期支出	204	219
収支差額	20	24
前期繰越金	323	304
次期繰越金	304	280



和白干潟を守る会の活動を紹介します！ (山之内 芳晴)

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

干潟で自然の大切さを伝える活動（観察会や干潟まつり）

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は13回行いました。また、和白小学校では年間計画の中で継続して「和白干潟の自然観察」を行い、2月にはまとめの発表会がありました。このほか、毎年11月には「和白干潟まつり」を開催していますが、昨年は雨天のため中止になりました。



和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の15時～17時に、海の広場から唐原川河口までの範囲を中心に企業や学生を含む一般のボランティアと共に清掃し、清掃後には自然観察も実施しています。昨年は毎月定例のクリーン作戦のほかに臨時の清掃も加えると年間17回行い、延べ1447人が参加、1713袋のゴミを回収しました。



和白干潟周辺の自然の調査

環境省、NPO法人バードリサーチ、JEAN（クリーンアップ全国事務局）などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。（鳥9回、漂着ゴミ1回）



和白干潟の水質調査と砂質調査（毎月実施）

下の表は2019年10月から2020年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはCODが4の月もあり、改善傾向にあります。砂質調査については、前年度に比べ浜辺側の表層酸化層の厚さが薄く、悪化しています。（表層酸化層が厚いほど砂質が良いこととなります）

水質調査結果 (2019年10月～2020年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン(PO ₄)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量(COD)	mg/l	5	4	4	5	5	4
亜硝酸(NO ₂)	mg/l	0.02	0.01	0.03	0.02	0.01	0.01
透視度	cm	75	75	85	50	55	100

砂質調査結果 (2019年10月～2020年3月)

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	2	3	3	9	7	4
還元層の黒色度	—	14	14	13	13	13	14
150㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	7	13	15	29	38	33
還元層の黒色度	—	12	13	14	13	13	13

山・川・海の流域会議



立花山や三日月山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域全体を保全する目的で2012年7月に発足。立花山から和白干潟までの6団体で構成しています。2か月に1回定例会議を開き、2019年6月に「初夏の和白干潟観察会」、10月に「唐原川お掃除し隊」、2020年1月に新春座談会を開催しました。

和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

- 1/10 「MS&ADインシュアランスグループホールディングス」様より寄付金を頂きました。
- 1/31 「住友ゴム工業(株)、日本ユネスコ協会連盟」様より応援金を頂きました。
- 2/25 「あいおいニッセイ同和損保(株)」様より寄付金を頂きました。

和白干潟の自然だより

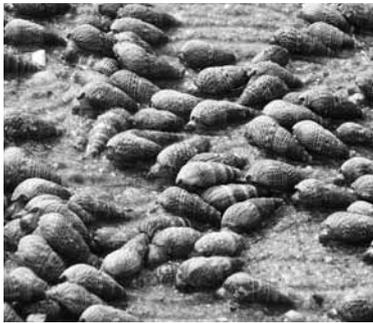
(山本 廣子)

ハマエンドウ マメ科。海辺の砂浜にはえる多年草。世界的に分布する植物として知られており、ヨーロッパ、アジア、北アメリカと北半球のほぼ全域の海岸に見られるそうです。種子は2か月以上海水に浮き続けることができ、海流で散布されるので、日本全国の広い範囲で見ることができるそうです。エンドウに似た大きめの花で、果実は小型で目立ちません。和白干潟沿岸では、海の広場付近のアシ原の中道に多く生えています。奈多海岸や雁ノ巣海岸にも群落があります。4～5月頃に美しい紫色の花をつけます。和白干潟沿岸の春の代表的な花です。自然海岸のある和白干潟を守り継いで行きたいですね。



ハマエンドウ

ウミニナ



ウミニナ

ウミニナ科。環境省 準絶滅危惧種 (NT)。殻長3 cm。北海道から九州の内湾の干潟で見られますが、東京湾などで生息地が減少し、絶滅が危惧されています。和白干潟では特に春には干潟いっぱいが増えたウミニナやホソウミニナで干潟が被い尽くされるように見えます。和白干潟では今のところ絶滅は大丈夫のようです。ウミニナはホソウミニナよりも殻が太く、殻口が張り出して滑層が白く膨れています。ホソウミニナは親と同じ貝の形で生まれてくるそうですが、ウミニナはカニの仲間と同じように幼生期をプランクトンで過ごし、博多湾の沖合を漂ってくるそうです。生きものの生態は不思議ですね。

メダイチドリ チドリ科。全長19 cm。和白干潟には旅鳥として主に春に訪れていますが、シロチドリに混じって冬に見られることもあります。和名では目大千鳥と書くように、目が大きめです。夏羽では後頸から胸にかけて橙色になり、きれいです。正面から見ると丸いので、並んだ姿がだるまさんが並んだように見えます。20年ほど前の雁ノ巣海岸で可愛い姿を良く見ましたが、最近は渡来数が減って見ることが余り無くなりました。以前は香椎海岸の岩場でも春にはたくさん訪れていましたが、人工島が出来てからはほとんど見られなくなりました。開発の影響を強く受けた鳥だと思います。



メダイチドリ

春の和白干潟のしぜん

春のアシ原ではハマダイコン、ハマヒルガオなどの花が次々に咲き、ヤマザクラの花も咲きます。ハマニンニクは穂を付けます。シャリンバイやトベラも花芽がつきます。ウグイスが上手に鳴きます。4～5月は潮干狩りの最盛期です。今冬はアサリ業者がアサリを獲り続けたのでアサリが減っていないか心配しましたが、3月中の潮干狩り客はとても多かったです。干潟ではコメツキガニなどのカニが見られます。アシ原付近にはアシハラガニなどがたくさん出てきます。干潟の生き物たちが活発に動き出す春の干潟は、生命の息吹を感じます。



ハマヒルガオ

今年の冬は暖冬で、越冬していたカモたちが早く渡って行きました。代わって旅鳥のオオソリハシギ、キアシシギなどが立ち寄ります。夏鳥のコチドリ、オオヨシキリなども渡ってきます。クロツラヘラサギやミヤコドリは4月中旬頃まで見られます。ミヤコドリは今春は20羽が見られました。

2月9日(日) 蒲生を守る会活動50周年記念シンポジウム 「蒲生干潟の現在 2011 - 2019」

「震災後の蒲生干潟の現状を見つめ、あるべき姿を探そう！」に参加しました。宮城県仙台市宮城野区の七北田川河口周辺に広がる蒲生干潟。ここで干潟を守る活動を続けてきた「蒲生を守る会」が4月に活動50周年を迎えます。仙台港埋め立て、東日本大震災、巨大防潮堤工事と、干潟は何度も危機にさらされてきました。この10年を振り返り、干潟の現在と未来を考えるシンポジウムで140名の参加がありました。第1部「震災後の蒲生干潟の現状」では、地形の変化と復旧工事計画の変遷や底生動物の生息状況と干潟生態系の現状、鳥類生息状況、震災後行った観察会と干潟の生き物調査の報告、第2部「蒲生干潟をめぐる課題と展望」では、蒲生干潟を取りまく火力発電所建設問題、蒲生地域住民の抱える諸問題、蒲生をめぐる諸問題の報告があり、私は「博多湾・和白干潟から、干潟を守る思い」を話しました。第3部はパネルディスカッションで、私もパネラーとして参加しました。私は全国の干潟の代表と思って、蒲生を守る会を励ましたいと思いました。私の話しで元気をもらったと感想をいただきました。私の話が力になったことは、とても嬉しかったです。



2月10日(月) 蒲生干潟を見学



翌日には、蒲生を守る会の方のご案内で蒲生干潟を一周しました。蒲生干潟は河口の横にできた潟湖干潟です。外海、砂浜、干潟、河口と多様な環境で成り立っています。7.2mの巨大堤防は、幅40mもあり、上部は平で歩くことができました。干潟の水辺にはカモ類やアオサギ、干潟ではシロチドリ、ハマシギ、ミユビシギなどを見ました。海岸ではミユビシギの25羽の群れ、海上にはクロガモ、カンムリカイツブリなどを見ました。蒲生干潟は砂をかぶってしまい、砂質の干潟に変わってきたそうです。仙台では蒲生を守る会の皆さんに大変お世話いただき、心より、お礼を申し上げます。(山本)

1月11日(土)「唐の原川を語ろう」山・川・海の流域会議主催 新春座談会

なみきスクエア視聴覚室で「唐原川を語ろう」(唐原川の自然の復活を目指して)が開催され、16名が参加しました。コーディネーターは九州環境管理協会の藤井暁彦氏でした。藤井氏が航空写真による大正時代から今日に至るまでの唐原川流域の地形の変遷を紹介し、各時代の地域の特徴を解説され、立花山、唐原川、和白干潟の山・川・海の魅力とはなにかを考え、つながりの魅力の発信、向上のためにできること、やりたいことについて話し合うことを提案され、意見交換しました。参加者からは「川の良いところを見つけるという視点から、みんなで流域を歩いてみたい。」という要望が出されました。



2月3日(月)～28日(金)「和白干潟の風」きりえ展開催



2月いっぱい西日本シティ銀行和白支店で、山本廣子(くすだひろこ)の和白干潟をテーマとしたきりえを展示しました。西日本シティ銀行和白支店の行員の皆様には和白干潟のクリーン作戦にボランティアとして毎回熱心に参加していただき、頼もしい支援者です。きりえの小作品はパネルに目の高さに飾り、大作品は奥の壁に飾りました。来店者から「和白干潟の野鳥に関心を持った」というメッセージも記載されており、地域とのつながりを嬉しく感じました。(山本)

気が付いたらあなたも電話してください!

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾空港局維持課)

沖のアオサをとってほしい時

092-282-7154 (港湾空港局みなと環境政策課)

弱った野鳥を見つけた時 092-513-5611

092-643-3367



** お 願 い **

干潟でのゴルフの練習やラジコン・ドローン等を飛ばすことはやめましょう! とても危険です。

干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

犬のフンの始末は飼い主がしましょう!

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

福岡県環境部自然環境課野生生物係

- 2019年12月
- 12/1 (日) バードウォッチングin和白干潟2019参加
2019年度第1回冬期シギ・チドリ調査(今津)
 - 12/3 (火) 第3回和白干潟まつり実行委員会
雁ノ巣干潟の破壊状況調査
 - 12/4 (水) 和白干潟通信133号編集会議
 - 12/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
 - 12/10 (火) 2019年度第1回冬期シギ・チドリ調査(博多湾東部)
 - 12/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
 - 12/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
 - 12/21 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
 - 12/23 (月) 和白干潟通信133号編集会議



きりえ「シャリンバイの実とヨシガモ」

ご案内

くすだひろこ きりえ 展

・ 和白干潟の自然 ・

日時：5月1日(金)～5月30日(土)

11:30～15:00, 17:30～20:30

会場：レストラン「花もも」(日祝休)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL：092-673-0563

和白干潟のきりえ作品を15点飾っています。

ご高覧をお願いします

- 2020年1月
- 1/5 (日) 2019年度冬期シギ・チドリ調査2回目(今津)
 - 1/11 (土) 山・川・海の流域会議「新春座談会」参加
イオン黄色いレシートキャンペーン
 - 1/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
2019年度冬期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
和白海域水鳥調査
 - 1/14 (火) 役員会
 - 1/21 (火) 観察会案内状発送会/干潟通信133号発送会
 - 1/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 2020年2月
- 2/2 (日) 2019年度冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)
 - 2/5 (水) 2019年度冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
 - 2/9 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
蒲生を守る会活動50年記念シンポジウム参加発表
 - 2/10 (月) 蒲生干潟を見学
 - 2/11 (火) イオン黄色いレシートキャンペーン
 - 2/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
 - 2/15 (土) 和白小学校5年生の和白干潟観察会まとめの発表会参加
 - 2/20 (木) 早稲田大学生物同好会の和白干潟見学会案内
 - 2/22 (土) 総会・臨時定例会議
和白干潟クリーン作戦と自然観察



きりえ「新緑の和白干潟」

干潟のつばやき「今ある自然を大事にして！」

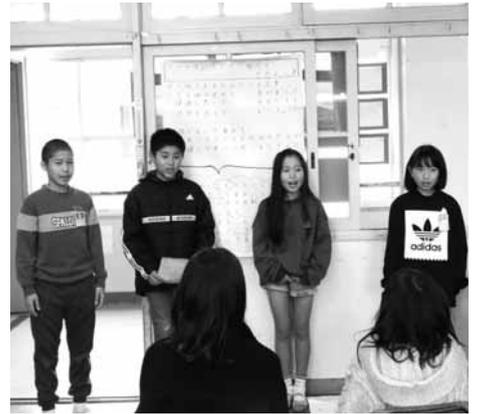
昨年11月、絶滅危惧種のオカミミガイやキヌカツギハマシイノミガイ、ハマガニなどの生息場所である雁ノ巣干潟のアシ原が、建設業者により破壊されてしまいました。アシが生えていては建設予定の別荘の景観が悪いということで、浜辺付近のアシ原が50センチほどの深さで掘削されてしまいました。福岡県の指示で、業者による埋め戻しが2020年1～2月で行われましたが、福岡県としてはアシを植えるところまでは求められない、貴重な生物云々のことはわかったが、法律的には「海岸法」の適用までであるとのことでした。掘削部分は埋め戻されましたが、その部分にはアシはありません。アシ原がなくなった浜辺には、オカミミガイやキヌカツギハマシイノミガイはなくなってしまいました。一度壊れた自然を元に戻すには、長い年月がかかってしまいます。浜辺に生えているアシは美しい花を咲かせるわけではありませんが、干潟の生きものに生息場所を提供しています。大事にしてほしいですね。



埋め戻し後

2月15日(土)和白小学校5年生まとめの発表会

昨年6月と11月の和白干潟観察会後の1年間のまとめの発表会「和白干潟からのメッセージ」がありました。参観日で保護者の方も多く、守る会は6名が参加し、手分けして発表を聞きました。1つの教室で同時に2グループ（1グループ4人～5人）が、調べたことを書いた模造紙を棒で指しながら発表していました。クイズ形式や、ペープサートを使ったりする工夫もみられました。発表を聞く子どもたちも熱心で、積極的に感想を述べていました。保護者の方も手を挙げて意見を述べてありました。発表の内容は、「ごみについて」「水・電気について」「リサイクル」「洗剤・石けんの使用量」「森林について」「生き物と環境」などでした。ごみ



についてとりあげたものが多く、身近なところから地球規模の環境問題まで広がっていました。五丁川の落ちていたごみを2週間調べたグループは、「このままごみを捨て続けると生きものの命が失われてしまう!」と危機感を持ち、啓発のポスターを貼るという結論を導いていました。全員の発表が終わった後、まとめの会がありました。守る会代表の山本さんが「私たちの後に和白干潟を守る人になってほしいです」と締めくくりました。保護者にも和白干潟のことを伝えるよい機会だったと思いました。地元の子どもたちがこれからも和白干潟に関心を持ち、自分たちの周囲の環境のことを考え続け、行動して欲しいと思いました。（有江）

2月20日(木)早稲田大学生物同好会の和白干潟見学会

早稲田大学生物同好会は10名ほどのグループで毎年各地に旅行し、鳥などの野生動物を観察しているとのこと。今回は出水のツルを始め九州の史跡等を巡り、最後に和白干潟の野鳥を観察したいとのことでした。9時50分に和白駅で出迎え、海の広場で野鳥や干潟の植物観察をしました。天候も良く干潟にはカモ達もたくさんおり、守る会の活動を紹介したり望遠鏡で干潟の鳥を観察したりアシ原を散策したりと、和白干潟の自然を楽しんでいただきました。最初は、雁ノ巣海岸にいたミヤコドリ20羽も12時頃には海の広場近くに飛来し、ミヤコドリを近くで見ることができて良かったです。（山之内）



新型コロナウイルスに関する和白干潟を守る会の対応

2月20日に新型コロナウイルスの感染者が福岡市内でも発生しました。和白干潟を守る会は、2月22日(土)の「クリーン作戦と自然観察」から、日本野鳥の会での対応を受けて、活動を行なう際は下記のように対応することとし、ホームページに掲載しました。

体調の悪い人は参加しない。（主催者側も、参加ボランティアも）これまで、お茶・お菓子を用意していましたが、飲食物は提供しない。各自で飲料を持参してください。望遠鏡（特に接眼部）は消毒し、受付用品なども消毒する。各自が咳エチケット（マスクを着用する）、手洗いの実施をする。手洗いは用意する。消毒用アルコールも準備する。急遽中止することもあります。その時には事前にホームページでお知らせします。また、集合地（海の広場）で守る会会員が対応いたします。これらの対応は当分の間実施します。日々状況が変わりますので、ご注意ください。

守る会問い合わせ窓口

ホームページ：<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会/観察会(申込等)・・・山之内 芳晴	Tel 090-8412-2663
クリーン作戦……………田辺 スミ子	Tel 090-1346-0460
広報/調査/定例会議……山本 廣子	Tel/Fax.092-606-0012
干潟まつり……………今村 恵美子	Tel 090-3413-6443



和白干潟のクリーン作戦と自然観察のおさそい

4月25日(土) 15時~17時「干潟・湿地を守る日2020」参加
 「全国春のビーチクリーンアップ2020」参加
 6月14日(日) (受付:9時) 9時半~11時半「ラブアースクリーンアップ」参加
 集合: 和白干潟海の広場 (東区和白4丁目海岸) 小雨決行
 問い合わせtel(090-1346-0460) 田辺



初夏の唐原川を歩こう(山・川・海の流域会議主催)(検討中)

日時: 6月13日(土) 10時~
 参加費: 無料 問い合わせ: 090-2397-1424 (松田)

定例スケジュール

新型コロナウイルス感染状況により中止もあります。問い合わせからご参加ください。
 TEL: 092-606-0012 (山本)

定例会議 (4/25, 5/23, 6/27)
 毎月第4土曜日 12時~14時 守る会事務所にて開催。

★定例会議時間変更のお知らせ★

昨年の7月より定例会議の時間を12時半~14時半に変更して行いましたが、15時からのクリーン作戦に時間的余裕がないため、再度守る会総会で話し合い、**12時~14時**に変更を決定しました!

以下は参加自由です! 仲間が待っています!

クリーン作戦と自然観察
 (4/25, 5/23, 6/27)

毎月第4土曜日 15時~17時 和白干潟・海の広場集合
 長靴があると便利。駐車場なし。

和白海岸探鳥会 (5/10, 6/14, 7/12)

主催: 日本野鳥の会 福岡支部
 毎月第2日曜日 9時~12時 JR 和白駅前の和白公園集合
 参加費: 一般300円 野鳥の会会員100円

★会員募集中!

年会費 個人 2,000円
 団体 5,000円

★カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
 和白干潟を守る会

和白干潟の鳥たち (その90)

オバシギ (チドリ目 シギ科 / Great Knot) 姥鷗 [全長27cm]



(写真撮影: 三宅 僚)

オバシギはロシアの北東部で繁殖し、東南アジアやオーストラリアで越冬しています。春秋の渡りの時期に和白干潟を訪れています。4月頃の和白干潟に30羽程の群れで渡来し、干潟でゴカイや甲殻類、貝などを食べています。夏羽は胸が黒くなり、肩羽に赤橙色が出て美しくなります。姥鷗という和名は良くわかりません。群れでの行動は素早く、老人のイメージは似合いません。尾羽鷗とも書くとされていますが、尾羽にも特徴は特に無いように思われます。海の広場付近をオバシギたちが元気に移動する姿を見るのが、毎年楽しみです。時々顔から胸や腹まで赤いコオバシギが混じっています。少し小型ですが、赤いので良く目立ちます。(山本 廣子)

【編集】有江圭子・田辺スミ子・今村恵美子・山本廣子・山之内芳晴



《カット》「香椎保育所」の子どもたち・くすだひろこ

次号は2020年7月に発行予定



【編集後記】今年の冬はミヤコドリ20羽、ダイゼン10羽が越冬しましたが、その他のシギ・チドリたちは少なかったです。春は渡りの季節、和白干潟には南方からの渡りのシギ・チドリたちがやってきます。干潟を忙しく駆け回るオバシギの群れを早く見たいものですね。(山之内)